

スピーキングの評価

注)日本語版は、あくまでも読者の理解を容易にするためのものであり、英語による本文が正文です。日本語版は仮訳です。

スピーキングの評価

<http://www.teachingenglish.org.uk/article/evaluating-speaking>

この記事では、話し言葉の英語を効果的なコミュニケーション手段として使うためには、話し手がどのような能力を備えるべきかについて検討する。

例えば、話し手は一つひとつの音を明瞭に発音し、言語の機能を理解し、相手と順番を交代しながら話を進める必要がある。この記事の第2部では、こうした個々の要素を適切に評価することが可能かどうか、そして評価の手段について検討する。記事の第3部ではこうした能力を評価する方法を考察し、特に4技能英語試験 IELTS (アイエルツ)のスピーキングテストに焦点を当てる。

- ・話し手が行っていること
- ・会話の音韻素性
- ・言語ルールの順守
- ・パラ言語的な手段
- ・コミュニケーション機能
- ・社会的な意味合い
- ・結論

話し手が行っていること

スピーキングは、多数の異なる要素が相互に作用しながら効果的なコミュニケーションを生むという複雑な行為である。このスキルを適切に評価するには、こうした要素を個別に分けて把握する必要がある。その後それぞれの要素を評価する枠組みを構築することが可能である。下記には、話し手が効果的にコミュニケーションするために必要な要素を一覧に示している。

会話の音韻素性

話し手は、会話の音韻素性を聞き手が理解できるように再現する必要がある、また自分でそれを聞いたときに理解できなければならない。こうした特徴には以下のものが含まれる。

- ・ 個々の音-子音、母音、「day」に含まれる二重母音、「here」に含まれる三重母音。
- ・ 単語の中で強勢が置かれる音、置かれない音:例えば、「banana」の第二音節には強勢が置かれ、第一、第三音節にはない。
- ・ 会話の中で強勢が置かれる単語、置かれない単語:例えば「Go to bed!」という命令では「Go」と「bed」には強勢が置かれ、「to」にはない。
- ・ 一般的な会話のリズム。英語は強勢によるリズムを持った言語で、一般に強勢がある音節と音節の間には一定の間隔がある。
- ・ 会話におけるイントネーションの型、下降調、上昇調、平坦調など。

- 連続発音話の特徴:つまり、音を連結させたときに生じる特徴。例えば、連続発音によって、「doesn't」などの短縮形、「I am」の中の/j /音のような連結音、「I don't know」の中の/ t/音のような音の脱落・省略、「white bag」の中の/ t /音が/p/音に変わる変音などが生じる。

言語ルールへの順守

話し手は、単語、文章、テキストそれぞれのレベルで言語ルールを理解し、それに従わなくてはならない。ルールには以下がある。

- 適切な語彙の選択。話し手は単語の意味、そのニュアンス、ていねいさの度合い、使用域の種類とジャンル、その単語とよく一緒に使われる言葉(連語)を検討する必要がある。
- 節や文章を作るために文法構造を使うこと。
- 長短の言い回しに結束性や一貫性を持たせる談話機能を使うこと。例えば、話し手は“This is the problem.”と言及する表現や so という接続詞を使う必要がある。

パラ言語的な手段

話し手はコミュニケーションの一つのツールであるパラ言語的な手段を理解して使えなければならない。パラ言語には複数の定義が存在するが、言葉をいかなる形でも含まない手段と定義すれば、以下のものが当てはまる。

- ジェスチャーや表情といった非言語的表現。
- アイコンタクト、態度、姿勢、頭の動きなどのその他のボディーランゲージ。
- ささやく、叫ぶといった声の大きさの変化や whew!や tsk!などの音のような口頭のツール。

コミュニケーション機能

話し手は、音声のコミュニケーション機能を認識、理解し、使えなければならない。これには以下が含まれる。

- 語彙と文法のコミュニケーション機能に対する理解。例えば、以下が普通の会話である理由を理解できる。
A: "Did you walk the dog today?" 今日犬の散歩をしてくれた?
B: "I've been in bed all day with a cold." 今日はずっと風邪で寝込んでいたんだ
- または、話し手が"Do you know who I am?" 「私が誰だか知っているのか」と言った場合の意味合い。
- イントネーションや強勢の位置による機能に対する理解。例えば、イントネーションや強勢によって、"Oh, really?" 「えっ、本当ですか?」といった態度、"I said **three** bananas." 「バナナを **3**本と言ったんだ」といった強調、項目の羅列の最後を示す下降調のイントネーションなどの構造を示すことができる。
- 繰り返し、言い換え、ポーズ、音などの機能に対する認識とその役割への理解。
- 音量やトーンの変化といった非言語的特徴に対する認識。

社会的な意味合い

話し手は会話の社会的な意味合いを理解し、それを使えなければならない。これには以下の点への考慮が含まれる。

- フォーマルな言葉遣いとインフォーマルな言葉遣いの使い分け。
- 言葉によって伝わるであろうニュアンス。例えば、thin(痩せた)、slender(ほっそりした)、skinny(痩せこけた)に見られる違い。
- 直接的な表現の度合いに対する判断。例えば、”Help me with this.”「これを手伝って」、と”Would you mind helping me, please?”「よろしければお手伝いをお願いできますか」と言う場合の違い。
- どんな社会的要因が重要であるか。例えば、社会的地位、年齢、ジェンダー。
- 順序交代ややりとりなどの会話の原則(決まり事)。これらはそれぞれの文化や社会によって異なる場合がある。
- 会話を始める、持続させる、うまくすすめる、終わらせるための規則。

結論

話し言葉によるコミュニケーションには、上記の項目からわかるように多数の事柄が関連しており、円滑にコミュニケーションを取れるかどうかは上記の項目を使いこなす話し手の能力にかかっている。そのため学習者の話し言葉の英語を評価するには、こうした様々なツールを考慮しなければならない。

この記事の第2部では、こうした要素の中で評価に含められるもの、含められないものを検討し、その後、スピーキングテストをいくつか取り上げてこの課題にどう取り組んでいるかを調べる。

著者: Paul Kaye, Materials writer, Bolivia